

第3学年国語科学習指導案

3年1組 28名 指導者 大谷 政輝

3年2組 28名 指導者 江口 舞

1 分科会提案

(1) 「よい学習」

中学年分科会第3学年の目指す「よい学習」とは、児童のつぶやきで、ゴールに向かって進んでいく学習である。

(2) 「よい学習」を実現するための手だて

①導入の工夫

民話の楽しさを感じさせるために、児童のよく知る民話を読み聞かせる。

②課題設定

児童の初発の感想「不思議なこと」から、「言い伝えは本当か」と課題設定することで、児童の主体的な活動を促す。

③同じ授業展開の繰り返し

毎時間同じ授業展開「なぞとき（言い伝えは本当か）」をしていくことで、児童が思わずつぶやき、安心して話し合いに取り組めるようにする。

④立場を決めさせる

自分の考えとは関係なく、言い伝えが「本当である」「本当ではない」のどちらかの立場をとらせることで、民話を多面的に取り扱わせるとともに、活発な話し合い活動になるよう導く。

2 単元名「民話のおもしろさを伝えよう！」

～言い伝えのひみつをとき明かしながら、おもしろさを見つけよう～

教材名「三年とうげ」（光村図書 国語3年下）

3 教材観

本教材は、朝鮮半島に伝わる民話である。この教材は独特の語り口による楽しいリズムがあり、ちょっとした機転で不幸を幸せに転じたとんち話の側面もある。発想の転換の面白さを楽しく学ぶと同時に、その時代の人たちの生活にも触れることができる。また、ほのぼのとしたタッチで挿絵に描かれており、「ため息の出るほどよい眺めの魅力的な峠に人々が恐れる言い伝えがある」という場面設定は読み手を惹き付ける。情景描写、言い伝えや歌、人物の性格などをたどりながら、人々のおおらかな生き方を楽しく味わいたい作品である。

本単元では、「町田に伝わる民話の面白さをリーフレットで紹介する」という言語活動を設定した。選んだ民話の「あらすじ」と「面白いと感じたこと」を短い文に表す活動を行う。また、考えたことを交流することで、感じ方に違いがあることに気付く機会になることを期待している。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	<ul style="list-style-type: none"> 引用のしかたを理解し使うことができる。(2)イ 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。(3)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。C(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 引用のしかたを理解し使っている。(2)イ 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得るのに役立つことに気付いている。(3)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、民話を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話を紹介しようとしている。

5 児童の実態

(1) 1組

「まいごのかぎ」の学習では、「かぎのひみつの力」を謎解き形式で場面ごとに解き明かしていく活動を行ったが、その際、ペアや数人のグループでは、友達と自分の考えを積極的に伝え合う姿が見られた。自分の考えを表現することが大好きな児童もおり、「他の友達の考えも聞きたい！」とグループを超えて交流する児童もいた。半面、全体に発表することは苦手であり、全体共有の場で積極的に発言する児童は3割程度である。

(2) 2組

「まいごのかぎ」の学習では、登場人物の心情の変化や、「かぎのひみつの力」の正体に迫るために、話し合い活動や共有を行った。積極的に友達と自身の考えを交流するだけでなく、相手の考えをしっかりと理解して他の人に伝えようとする児童が4割程度いた。一方で、考えを深めるためにどのような視点で相手と話し合い活動をすればよいのか分からない児童も3割程度いたため、互いに考えを発表し合うだけで活動が終わってしまうグループもあった。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
第1次	1	① 民話の読み聞かせを聞き、関心を高める。 ② 紹介リーフレット「町田の民話のおもしろさを伝えよう」を作ることを単元のゴールとして学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	・民話を聞くことで、民話の楽しさや面白さに触れさせる。 ◆単元のゴールや学習計画を理解し、民話を紹介しようとしている。 【態】☆発言・観察
第2次	2・3・4・5 (2組本時)	③ それぞれの場面で、「三年とうげ」の言い伝えが本当か本当でないかの立場を決めて、根拠となる叙述に線を引く。 ④ 同じ立場同士で、探した叙述について、全文シートをもとに話し合う。 ⑤ 違う立場同士で、探した叙述について、全文シートをもとに話し合う。 ⑥ 話し合ったことから、自分の考えを理由とともにワークシートに記入する。	・「言い伝えは本当か」というなぞときで、毎時間「同じ学習の流れ」を繰り返していく。 ・根拠をはっきりさせながら話し合わせるために、全文シートを活用させる。 ・児童がメモをとったり線をつなげたりして、自由に活用できるように、全文シートに行間を空けて余白をつくる。 ・多様な考えに出会わせるために、少数意見を全体に紹介する。 ◆「三年とうげ」を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【思】☆記述・発言
第3次	6・7 (1組本時) 8・9	⑦ 町田の民話を選ぶ。 薬師池の大蛇 カップアが教えた治療 坊山の天狗 狐を背負ったチュー爺さん 参考：「町田の民話と伝承2」 町田市文化財保護審議会編より 一部編集 ⑧ 選んだ民話について話し合う。 ⑨ 紹介リーフレットを作る。 ⑩ リーフレットを読み合う。	・自分の住む地域にも様々な民話があることに気付かせ、面白さを見付けさせる。 ◆町田の民話を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【思】☆記述 ◆引用のしかたを理解し使っている。 【知】☆記述 ◆幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得るのに役立つことに気付いている。 【知】☆記述・発言

7-1 本時の学習（3年2組：5/9時間目）

(1) 目標

第四場面までの文章を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。

(2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	<p>○単元のゴールを確認し、本時のめあてを立てる。</p> <p>○前回の振り返りを共有する。</p>	<p>・児童の主体的な学習にするために、単元のゴールと本時のめあてを確認する。</p>
4 場面までで、「言い伝え」が本当かどうかをさぐろう！		
展開 (35分)	<p>○「言い伝えが本当かどうか」の立場を決める。 C：こんなことはないから本当ではないな。 C：本当でないと思うけど、本当の立場で考えよう。</p> <p>○教師の範読を聞きながら、自分の立場の根拠となる叙述部分に線を引く。 C：「わざとひっくりかえり」「長生きした」</p> <p>○根拠について話し合う。 〈同質グループ〉 C：「真っ青」から「けろけろけろっと」と大きく変化したから、本当ではなかったと思う。 C：本当だったら「わざと」しないと思う。 〈異質グループ〉 C：たくさん転んで長生きしたのだから本当だと思う。 C：死ぬというのに長生きしたのだから、本当ではないよ。</p> <p>○話し合ったことを踏まえて、自分の考えを書く。 C：友達の言っていたことから、言い伝えは本当ではないと思う。</p>	<p>・民話をいろいろな視点から考えさせるために、自分の考えに関わらず、「本当であるか」「本当ではないか」の立場を決めさせる。</p> <p>・自分の立場の根拠をはっきりさせるために、全文シートの根拠となる部分に線を引かせる。</p> <p>・自分の立場の根拠をはっきりさせて話し合わせるために、全文シートを見せ合いながら、根拠となる理由について話し合わせる。</p> <p>・異質グループを納得させられるように、同質グループで話したことも生かすように声を掛ける。</p> <p>・場面をつなげて考えさせるために、今までの場面も踏まえて話し合うように促す。</p> <p>・いろいろな考えに出会わせるために、対話グループを何度か入れ替える。</p> <p>・自分の考えをはっきりさせるために、話し合いで考えた根拠や理由も書かせる。</p> <p>◆文章を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や「言い伝えが本当かどうか」について考えをもっている。</p> <p>【思】☆記述</p>

まとめ (5分)	<p>○今日の学習について振り返る。</p> <p>C:場面をつなげて考えると、おもしろいところ広がるね。</p>	<p>・児童が本時で何を学んだかを自覚させるために、「気付いたこと・考えたこと」「友達と話してみても」「次時への見通し」についてワークシートに振り返らせる。</p>
-------------	---	--

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
言い伝えが本当かどうか、叙述と話し合いに基づいた理由が書かれている。	言い伝えが本当かどうか、叙述か話し合いに基づいた理由が書かれている。	言い伝えが本当かどうか、理由が書けない児童には、根拠となる叙述に線を引いた本文シートを渡す。

(4) 板書計画

三年とうげ

めあて：四場面までで、「言い伝え」が

本当かどうかをさぐる

「今日の流れ」

- ・自分の立場で根きよをさがす
- ・同じ立場の人と話し合う
- ・ちがう立場の人と話し合う
- ・自分の考えを書く
- ・学習のふり返り

本当

- ・おそろおそろ歩きました
- ・病気になるってしまいました
- ・「はやく死ねと言うのか。」

本当でない

- ・ためいきの出るほどよいながめ
- ・ごはんも食わずに
- ・わざとひっくり返り
- ・あんまりうれしくなった
- ・長生きした

前回まで

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

◎根拠を探させる

- ・地の文や台詞から本当か本当でないか、分かるところ、感じられるところはないですか。
- ・情景と言い伝えとの違いを感じることはないですか。

◎理由や根拠が探せない児童への支援をする。(根拠となる文に線の引いてある本文シートを渡す。)

- ・線の引いてあるところから考えてみましょう。どんな感じがしますか。
- (根拠を探させるのではなく、傍線部分から理由を考えさせる。)

◎根拠をもとに友達に伝えることができるようにする。

- ・文のどこから考えましたか。
- ・何を想像しましたか。
- ・友達との違いはどのようなところですか。

(常に本文に立ち返るよう意識させ、友達と自分の考えを比較させる。)

7-2 本時の学習（3年1組：7/9時間目）

(1) 目標

町田の民話を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。

(2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の答え	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	<p>○単元のゴールを確認し、本時のめあてを立てる。</p> <p>○前回の振り返りを共有する。</p>	<p>・児童の主体的な学習にするために、単元のゴールと本時のめあてを児童に言わせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">町田の民話のおもしろさを紹介しよう。</div>	
展開 (35分)	<p>○自分がおもしろいと考えた根拠となる叙述部分に線を引く。</p> <p>C：「命だけはお助け下さいませんか。」 C：「医者を開業したところ」</p> <p>○根拠について話し合う 〈同質グループ〉 C：悪さをしたのに命ごいをするとところが面白い。 C：力自慢の男が医者になったところが不思議。</p> <p>〈異質グループ〉 C：命ごいするなんて、面白いけれど自分勝手だよ。 C：美しい娘が大蛇だったことに驚いたんだ。</p> <p>○話し合ったことを踏まえて、自分の民話シートに面白いと思ったことをまとめる。 C：友達の言っていたところも、面白いな。</p>	<p>・前時に町田の民話を選び、どこがおもしろいか考えながら音読させておく。</p> <p>・自分の根拠をはっきりさせるために、民話シートに線を引かせる。</p> <p>・自分の根拠をはっきりさせて話し合わせるために、叙述に立ち返りながら、根拠となる理由について話し合わせる。</p> <p>・叙述に立ち返らせるために、民話シートを見させる。</p> <p>・異質グループの考えを聞いて、それについての自分の考えを伝えさせる。</p> <p>・同質、異質グループで話し合った考えについても民話シートに書き加えさせる。</p> <p>◆町田の民話を読んだり話し合ったりして理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【思】☆記述</p>
まとめ (5分)	<p>○学習について振り返る。</p> <p>C：民話の面白いところは、人によっても違うことが分かった。</p>	<p>・児童が本時で何を学びとったのかを自覚させるために、学習を通して、「気付いたこと・考えたこと」についてワークシートに振り返らせる。</p>

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
自分の選んだ民話の伝えたい面白さが、叙述と話し合いに基づいた理由が書かれている。	自分の選んだ民話の伝えたい面白さが、叙述か話し合いに基づいた理由が書かれている。	民話の面白さを見つけられない児童には、根拠となる部分に線を引いた民話シートを渡す。

(4) 板書計画

<p>三年とうげ</p> <p>めあて…町田のみんな話のおもしろさを しようかいしよう。</p>	<p>「今日の流れ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんな話のおもしろいと思ったところに線を引く。 ・ 同じみんな話をえらんだ人と、おもしろいと思った理由を話し合う ・ ちがうみんな話をえらんだ人と、おもしろいと思った理由を話し合う ・ みんな話シートに自分の考えをまとめる ・ 学習のふり返り 	<p>「町田のみんな話」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬し池の大じゃ ・ きつねになつたちちゅーじいさん ・ かつぱが教えたひ伝 ・ ぼう山のてんぐ
--	--	---

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

◎根拠を探させる。

- ・ 面白いと思った一文に線を引こう。
- ・ 一文は、台詞でもいいし、地の文でもいいよ。

◎理由や根拠が探せない児童への支援をする。(根拠となる文に線の引いてある民話シートを渡して)

- ・ 線の引いてあるところから考えてみましょう。
- ・ どんな面白さがありますか。

(根拠を探させるのではなく、傍線部分からおもしろさを考えさせる。)

◎自分の考えを伝えことができるようにする。

- ・ 線の引いてあるところから考えてみましょう。
- ・ どんなことを考えましたか。
- ・ 友達の考えと違うところはどんなところですか。

(常に叙述に立ち返るよう意識させ、友達と自分の考えを比較させる。)